

Q : 痙攣・ひきつけの対応の仕方を教えてください。

A : けいれんとは、筋肉が急に激しく収縮することで、ひきつけとも言います。乳幼児期は、脳神経の細胞が未発達なために、発熱や強い刺激を受けた場合、神経細胞から強い電流が出て、筋肉がけいれんを起こしたり、意識がなくなったりします。初めてけいれんを起こすのは、3歳未満が約8割で、そのうち、約半数の子どもが、2回以上けいれんを起こします。けいれんで、最も多いのは熱性けいれんで、38℃以上の発熱に伴って起こります。高熱時に、意識がはっきりせず、数分間、一点を見続けるような状態もあります。てんかんによる場合や、頭を強く打った場合にも、けいれんを起こすことがあります。その場合には、すぐ病院を受診してください。けいれんが起きると、突然、からだを硬くして、その後、手足をブルブル（ガタガタ）ふるわせ、目は上方を向いて白目となり、意識はなくなり、呼吸が荒く、不規則になります。多くの場合は、5分以内におさまり、その後、意識が回復するか、スヤスヤと何事もなかったように眠ります。子どもがけいれんを起こしたら、あわてないで、子どものそばに付き添いましょう。硬いものや、角がとがっている積み木、机、椅子など、皮膚を傷つける可能性のあるものを、まわりから除去して、子どもが外傷を受けないようにします。子どもの洋服のボタンをはずして、衣服をゆるめ、半伏せ、または顔を横向きにして、窒息を予防します。けいれんの持続時間や、けいれんが全身に起こっているのか、身体の中のどの部分に生じているのか等を観察します。けいれんがとまったら、横向きに寝かせ、身体を暖かくして、安静に保ちます。そして、体温を測ります。嘔吐して、口の中に吐物が見られるときは、顔を横に向け、指にハンカチ、または、ガーゼ等の布を巻いて、下顎を押して口を開けさせ、口の中に挿入して吐物を取り除きます。刺激により、再発作を起こすことがありますので、運搬時には注意しましょう。すぐに保護者に連絡します。以下の場合、医療機関を受診する必要があることを保護者に伝えてください。①初めてけいれんを起こしたとき、②けいれんが5分以上続くか、1日のうちに2回以上くり返すとき、③からだの一部だけのけいれんや左右差が強いとき、④けいれんの後に意識が回復しない、または、身体の動きが悪いとき等。けいれんを起こして、舌をかむことはないの、わり箸にガーゼを巻いて口にくわえさせる必要はありません。かえって、割り箸で口の中を傷つけてしまう可能性があります。また、けいれんは、数分でおさまるので、身体を抑制する必要もありません。

（前橋 明）